

7月号

第426号

いっしん

令和2年(2020年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

喜びの
心一つに
進み行き
神のみ許に
参り昇れとぞ
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御款

教祖様137年 教団独立120年 小倉布教135年 甘木布教116年
安武松太郎大人69年 安武文雄大人25年(式年祭11月23日) 加治木教会布教69年



少年少女会「野外調理」

開かれる

少年少女会も、人が集まるいろいろな行事も「緊急事態宣言」で長らく開くことができませんでしたが、ひとまず五月末に解除され、県境を越えての移動自粛も、ある程度緩やかになってきた六月二十日、霧島山のふもとの「仙寿の里温泉」(教徒 瀧尾)で、少年少女会「野外調理」が開かれました。

親子で、薪で火を焚き付けて、大鍋でカレーを作り、飯盒でご飯を炊き、ダッチオーブンで焼き芋を作りました。

前日まで、お湿りが続いていたため、山中の杉の枯葉もぐっしより湿って、薪に火が付きませんでした。新聞紙は永原ファミリーが、段ボールは安楽ファミリーが、偶然持ち合わせていましたので、大変助かりました。

いったん薪に火が付くと、瞬く間に大鍋も飯盒もたぎりだし、日頃ガスや電気しか使わないので、子供たちは、まさに興味しんしんでした。

少年少女会「野外調理」…P1～2
お知らせ…P7

加治木教会布教記念祭…P3～8
教会行事…P8

少年少女会「野外調理」

開かれる

久しぶりの、少年少女会は「野外調理」で、なべ吊りと、雨よけのタープを一枚準備して、温泉施設のバーベキュー用テーブルなどをお借りして始めました。

開会行事のお話では「火を使えるのは人間だけで、火は人類の生活や文化を大きく、大きく、発展させることができました。火も天地のお恵みです。お礼を申して焚かせていただきますしよう。今日は、食材や道具も、お礼を申して粗末にならないように調理させていただきます、信心の稽古をさせていただきますしよう」というような内容でした。

杉の葉は湿っていたために、段ボールで着火しましたが、さらに団扇(うちわ)も忘れていたのですが、安楽泰成君(6才)が家を出る時に偶然にも「持っていくー」ということで、二枚持ってきてくれていて、とっても助かりました。

団扇があるとないとでは、火の燃

え方、鍋などの炊けるスピードが断然違います。



もりのなかで、じぶんたちでつくって、いただくできたてのカレーはかくべつなあじでしたね!

布教記念祭 加治木教会 布教六十九年 **仕えられる**

令和二年六月十日

布教記念祭のお話

(教会長)

今日は布教六十九年の記念祭です。梅雨入りしましたので、加治木教会の信者の方にも、今月下旬の週末に田植えをされる方があります。

政美親先生方は、そのような田植えで忙しい時期であったでしょうが、昭和二十六年の六月十七日に甘木親教会を出発され、加治木の町に布教に立出しておられます。

親先生はじめ先生方や信者さん方に見送られ出発しておられます。

その日の夜は、栗野教会（真田先生）に泊まられて、十八日に加治木町の、松田モトさんの借家に入って御用を始めておられます。

松田モトさんは、戦前に布教されてあった平島只助先生の時代からの信者さんでした。

平島只助先生は、大正十二年に布教され、昭和十九年にお国替えされ、戦後ご家族が福岡に引き上げられました。



平島忠助先生

平島只助先生の時代は、加治木町の旧士族のお歴々と言うのでしょうか、そういう

方々がたくさん参拝してあったと、瀬戸純一（平成に入ってから十数年信徒総代務められた）さんがお話されたことがあります。

古い資料にも名前が残っています。参拝者も多かったようです。

平島先生は、お道の教師になられる前に憲兵の仕事をしておられました。

憲兵は軍事警察ですから、戦時中は社会的に認められていました。

そのためか、布教当初は焼酎工場や旅館などがあつた港町で布教されましたが、のちに警察署のすぐ近くの町の中心に教会ができました。

しかし、政美親先生が再布教された昭和二十六年には、建物などは人手に渡っていました。

平島先生の時代から信心をされ再布教後まで信心が続いた信者さんは、松田モトさん、庄村ミサさん、中島

フサさん方のご家族くらいだったようです。

再布教されて、戦前にお参りしてあった信者さん方に、お祭りの案内などを出されたそうですが、ほとんど参拝されなかったとのことでした。

そのため、政美親先生方は、一旦教会がなくなつてからの再布教は、大変困難が多かつたとお話されたことがあります。

そうして、いつも参拝されるのは大家ですぐ隣に住んでおられた松田モトさんくらいで、参拝者はなかなか増えなかつたようです。

そのため、サダ子親奥様は、月例祭（旧月次祭）のお供え物にも困り、海岸へ行って貝を掘ってきたり、山に行つてツワブキなどを採つてきてお供えされたこともあつたとお話してありました。

そのため、布教三年目頃には、ついに行詰まつて「宮崎県に、信者さんがある程度おられて、先生がおられない教会がある」という話を聞かれ、夫婦でそこへ移ることに決められました。

しかし、一応親教会の親先生（二

代文雄親先にお届け申し上げなければということ、政美先生が一人で甘木親教会に参拝されました。

進退伺い

サダ子親奥様は、加治木で、引越したための荷物の整理をしておられたそうです。

政美親先生が甘木親教会に参拝されたのは、御大祭でもない普通の日だったので、ちょうど教会に参拝しておられた、母堂クラ刀自は何も行事のない時で不審に思われ、すぐに家に帰られて、政美親先生を待たれてあったそうです。



加治木教会宣教10年祭(昭和36年)に鹿児島県の各地を訪れられた二代親先生ご夫妻

政美親先生は、まず文雄親先生に転地布教のお話をされますと「一端、甘木教会に引き上げてから」という旨のお返事であったとのことでした。

その後、初代シゲ大奥様の所に行かれ同様のことを申し上げられ、すと「文雄さんは何と言ったかな」と尋ねられ「一端、甘木教会に引き上げてから」ということでしたと伝えると「そうじゃろうな」とのお返事であったとのことでした。

政美親先生は、つい三年前に、親先生はじめ先生方や信者さん方に「万歳！万歳！」と言って威勢よく見送られたこともあり、布教を断念したということで甘木親教会に引き上げて来にくかったのです。

政美親先生は、そのあと教会から歩いて十分ほどの堤(みづ)という集落の里に帰っておられます。

すると、何かありそうな気配を察して家に戻ってあったクラ刀自は「何事ね」と尋ねられ、政美親先生から転地布教を思い立ったことや、甘木親教会でお届け申し上げたことなどを打ち明けられたのです。

するとクラ刀自は、

「あんたが商売か何かであれば、

ここでは思うようにいかないから他の所に変わるということもよからうが、お道の御用というものはそんなものではないかと思う、あんたは甘木を出るとき、加治木の土にならしていたかどうかという決心で行ったのではなかったのですか、その決心はどうしました加治木で打って鳴らぬ太鼓はどこで打っても鳴りません、それを鳴らそうと思えば太鼓のバチが折れるまで、太鼓の皮が破けるまで打たせていただければ必ず鳴ります。あんたが一生かかって、道が開けんでもよいではないね、あんたが死んだのち、後を継いで下さる人が継ぎやすいようにしておけばそれで良いではないね」

と、泪ながらに励まして下さったそうです。また、そのとき入浴中であったお父様仁吉郎さんも、風呂から上がってきて、その事を聞くや、「あんたは加治木に出していただくときの決心を忘れたのか」と、強く諭されたそうです。

そこで腹を決められ「それでは、お父さんお母さん、そんなにさせて

もらいますから」臍を固め直された
そうです。

やがて甘木教会へ戻り、親先生に、「心得違いをしておりました。やはり加治木の土にならせていただきます」と申し上げると、親先生は「そうな、そりゃあ良かった」と喜んでくださり、神様にお願ひ申し上げて下さったそうです。

そうして、加治木へ帰って来られると、サダ子親奥様は柳行李に荷物詰め込んで準部万端にして待ってあったそうです。

サダ子親奥様は、政美親先生の話をお聞かされて「それでは、ここでおかげ頂きましょう」と仕方なく荷造りしていた荷物をほどかれたそうです。

臍を固め直してから

政美親先生は、そうして臍を固め直してからは、それまで「この土地が悪い」「この人柄が悪いから」とか、「前の先生が引き揚げられた後だから、御用が難しい」とか、不満な気持ちであられたそうですが『何のこの土地が悪かろうはずがない、天

地金乃神様のお土地だもの、人が悪かろうはずがない、天地金乃神様の可愛いみ氏子だもの。』と思いを改められ、毎朝御祈念後に、前の教会長平島只助師の奥津城にお参りされるようになったそうです。

そのように、臍を固め直し、心を改められると間もなく、川畑ツネさん悦子さん親子や、庄村ミサさん、中野サ子さん、榎原ヤオさん、宮内ミツルさんたちが教会を探して参拝



されるようになったのです。

ほんとうに、親神様が手のひらを返されたかのように、お引き寄せ下さったのです。そうしてこの方たちがまた次々と、地域の人や職場の人達をお導きして行かれました。

このように政美親先生の改まれたのは「親神様の御立場に立った信心」をしておられた母堂クラ刀自が、政美親先生が厳しい苦勞を嘗めておられる最中も、親神様の思し召しの中身をシッカリと頂いてあったからでありましょう。

「自分中心、自己中心の信心」であったならば「苦勞したね、大変だったね、そんなに辛いのなら加治木での布教は止めたらどうね」とさえ言われてあったかもしれせん。

しかし「神様は決して殺しはなさらない、本気で御用ができるように大変なところを通らせて、修行させて下ってある最中で、深いご慈悲・ご慈愛であるのだから」という神様の思し召しをわかってあったのだと言えます。

そのため「あんたが一生かかって道が開けんでも良いではないね。あ

んたが死んだのち、後をついでくださる人が継ぎやすいようにしておけば、それで良いではないね」というお言葉は「死んでもよいではないね、死ぬ覚悟で御用しなさい」という意味でもありましょう。

しかし、母堂クラ刀自には「神様はけっして殺しはなさない、本気で御用させていただけば必ず道は開ける」という確信があたりだったと思われまふ。

母堂クラ刀自は、三十三才の大患以来、初代親先生から「天地の大恩」「親神様のお恵みお働き思し召し」などなどを諭され「親神様の御立場に立った信心」にすっかり変わってしまったわれ、それからというものだんだんと信心が進み、十年ほど経つと、さらに人の羨むほどの田畑を持つ農家に立ち直るおかげを頂いておられます。

「親神様の御立場に立った信心」をことさら深く把握し、確信して行かれ、自分のものとされていたのです。

そのため、政美親先生の苦境の中にも、親神様の深い親心と思し召し

を確信されてあったのでありましよう。

その「親神様の御立場に立った信心」は、初代安武松太郎先生がクラ刀自に対し、特別に見込まれて伝えられた、お道の信心の核心部でも言うことのできる内容でありましよう。

初代安武松太郎先生は、その親神様について、ご教話の随所で、こと細やかに深くお話になられておられます。そのことは十数巻ある教話集に詳しく掲載されています。

『安武松太郎教話集』より親神様についてお話しになられてあるほんの一部を次に紹介させていただきます。

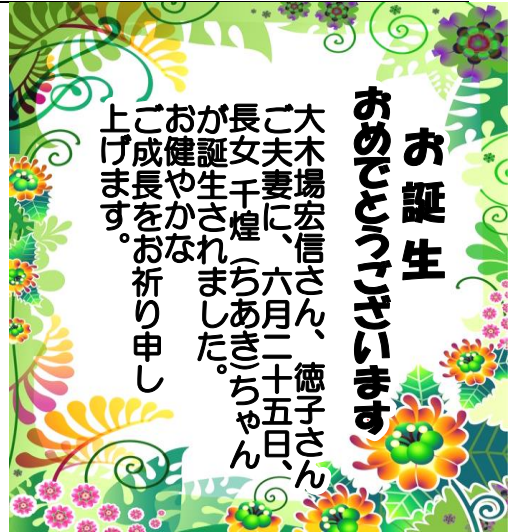
親神様は氏子の信心の有無にかかわらず、分に応じて愛を垂れ給い、衣食住の物を恵み与え給うています。

この親神様の無限のご神徳の中に生かされてわが身の世にあり得るいと、また人と万物とを比較して、冷静に考え合わせてみるならば、過去の自分の姿を見極めた場合、親神様の親心とを

考え比べて、ごつ然迷いの夢が酔め、わびてもわびても、なおわび足らざるを覚えると同時に、どれほどお礼を申し上げてもお礼の足らざることを自覚し得たときの気持ち、氏子にこの心がわき起こったときに、親神様の御扉は開けて、神人一致の場面が実現し、神人ともに喜び合えるのであります。

人の働きは末の末のまたその末の一部であります。人の働きを仮に一とすれば、それを親神様が千倍万倍にも、より以上にもしてくだされてこそ、人の生活はできるもので、天地金乃神様はすべての物を無償で恵み与え給うのであり、人は大根一本、葉っ葉一枚さえ造り得ないほど微力であるにもかかわらず、高尚な、幸福な生活が営み得られるのは、一粒万倍にしてください。親神様の無限のご慈愛、無限のご神徳のおかげであります。

(おわり)



お誕生
おめでとうございます

大木場宏信さん、徳子さん
ご夫妻に、六月二十五日、
長女千煌(ちあき)ちゃん
が誕生されました。
お健やかな
ご成長をお祈り申し
上げます。

あしあと

加治木教会行事記録

- 6月
- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
 - 9 (火) 清掃御用 10時
 - 10 (水) ●月例祭 生霊光 大神様 10時半
 - 併せて 加治木教会布教69年記念祭
 - 14 (日) 御本部教団独立記念祭 選擇 10時
 - 17 (水) (連) 「夏の集い」下見 13時半
 - 20 (土) 少年少女会 10時半
 - 21 (日) 清掃御用 10時
 - 22 (月) ●月例祭・共励会 13時半
 - 甘木親教会 教師婦人部会
 - 29 (月) 清掃御用 10時
 - 30 (火) 上半期感謝祭 10時半

年少少女全国大会に向け7月末まで
まごころ運動



に折り組みましょう。
平和の折りづる
※古切手・古カード
えんぴつ(新)
を集めます。
▼換金後、海外の恵まれない子どもたちへ送られます。

「取り組み表」

に取り組みましょう!

全国信徒会・鹿児島地方教会連合
会信徒部では、七月一日から「チエツ
クシート」(取り組み表)による「三
十日信行」か「百日信行」に、勢を
そろえて取り組ませていただきます。

車	朝の日参	夜事訓	水を使わせ	便・排尿	健康
1	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○

使用済み切手収集についてのお願い

※切手ははがさないで、以下の要領で切り取ってください。
※切手の周囲を5mm程度あけて切り取ってください。
※枚数を明記してお届けください。
※外国切手や台紙からはがした切手がある場合は別にしてお届けください。



七月のご霊神様のおまじ

- 川畑祐義 之霊神(7日)平成17年
 - 中野 繁 之霊神(9日)昭和54年
 - 大山ちあき之霊神(12日)平成13年
 - 村上淑子 之霊神(13日)昭和52年
 - 福山悦子 之霊神(13日)平成2年
 - 津上基次郎之霊神(18日)昭和31年
 - 徳永フヂエ之霊神(18日)平成29年
 - 金竹重利 之霊神(19日)昭和60年
 - 山本豊子 之霊神(19日)昭和3年
 - 上田スギ 之霊神(19日)平成21年
 - 福元三次郎 之霊神(20日)昭和33年
 - 須藤禮子 之霊神(22日)平成18年
 - 庄村袈裟助 之霊神(23日)昭和20年
 - 平地政男 之霊神(25日)昭和21年
 - 前田ツネ 之霊神(27日)昭和60年
- 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

七月五日(日) 午前十一時より
 加治木教会 前日御用、清掃のみ

祈願祭奉仕

講師 多良木教会長 〇祭典後、教話・直会。
 梅木博光先生

夏季信行期間

七月一日〜三十一日 御祈念 5:15
 研修 10:00

信行取組表に

全国信徒会、合同取組みの
 取組ませてくださいませしよう。

祈願祭(関係教会)

七月二十六日(土) 多良木教会 十一時

七月十二日(日) 十時半より
 少年少女会 セタ

いのりをこめた
 たんざくをつくり
 ささのほにかざり
 ましよう!

教会行事

7月

- 1 (水) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (金) 親教会参拝日(参拝未定)
- 4 (土) 御用奉仕
- 5 (日) ●加治木教会 祈願祭 11時
- 9 (木) 清掃御用 10時
- 10 (金) ●月例祭 10時半
- 12 (日) 少年少女会「セタ」10時半
- 16 (木) 甘木親教会 教師研修会
- 17 (金) ●甘木親教会 祈願祭
- 21 (火) 清掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭(天地金 乃神様) 共励会13時半
- 26 (日) 多良木教会祈願祭 11時
- 27 (月) さつま会(連合会 婦人教師会) 10時半
- 31 (木) 清掃御用 10時

8月

- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
コロナウイルス対策のため各催しは
 ありませんので、
 参拝は未定です。
- 8 (土) 少年少女全国大会 出発
- 9 (日) 少年少女全国大会 当日
- 10 (月) 少年少女全国大会 帰着
- 9 (日) 清掃御用 10時
- 10 (土) ●月例祭(生神金光 併せて
 大神様) 霊祭 10時半
- 14 (金) 市来家霊祭
- 19 (水) 〓20(木)
- 甘木親教会 婦人教師会
- 21 (金) 清掃御用 10時
- 22 (土) ●月例祭(天地金 乃神様) 共励会13時半
- 23 (日) 連夏のつどい 10時半
- 26 (水) 連教師研修会(鹿尻島 教会) 10時半
- 31 (月) 清掃御用 10時

子どもたちは、五月から七月まで
「チャレンジカード」
 とりくみましよう!

NTT 公園

2台分の
 駐車場を
 信徒会
 借りています

開
 ご利用下さい。

教会